

第16回病院広報研究会

「ずーっと。」が伝わる コミュニケーションを目指して

演題名(文字サイズ自由、但し枠内に2行まで有効)

法人名・施設名

医療法人溪仁会 法人本部

職責・職名

広報室

発表者氏名

藤田 真菜巳

演題名:

「ずーっと。」が伝わるコミュニケーションを目指して

CSRレポートは2006年11月創刊 現在発行部数4000部

グループ全体の年度の活動がひと目で分かるよう、ステークホルダーや職員のインタビューを盛り込み活気ある現場を紹介しています。また、各病院・施設の運営概要を取り入れパンフレットとしても活用できるよう作成しています。



広報の目的：

その広報活動を計画された、もともとの問題点や目的は何だったか

溪仁会グループは2006年に策定した中期5カ年経営ビジョンでは

- ①社会的責任（CSR）経営の確立
- ②医療制度改革による新医療計画のもとにおける「グランドデザインの実現」
- ③そのための人材の確保など組織基盤の強化と財務力の増強による「経営の安定と効率化」

の3本柱を基本方針とし、以来5年間、社会の要請に誠実に応えるCSRの理念を追求してきました。

当レポートでは、これらCSR経営に関する取り組みを、グループに関わる方々や諸機関・団体により深くご理解いただけるように、正確かつ分かりやすい情報公開を目指しています。



広報のプロセス：その広報活動のプロセスはどのような経緯や努力が行われたか

2011年版の巻頭では東日本大震災における溪仁会グループの災害医療支援活動を紹介。被災した宮城県気仙沼市の「おおしまハーティケアセンター」（当グループ老人福祉施設）の復興の様態も報告し、職員の生き生きとした姿を伝えるとともに医療を通じて「いま私たちにできること、すべきことは何か」というメッセージを発信しました。

また理事長の「トップメッセージ」のコーナーでは、2006年度からの中期5カ年経営計画の総括と、2012年度からの第2期計画の展望を示し、ステークホルダーの皆様へ溪仁会グループの歩む方向性をお伝えしています。

施設運営概要や、職員研修、コンプライアンス、ISO26000などの取り組みをまとめ、組織の全体像がわかるパンフレットとしても活用できるように構成しました。読者からの貴重な意見をいただきながら今後もさらに改善を目指します。

ユニバーサルデザインを導入し、文字の級数を上げるなど読みやすさを向上させ、高齢者の方にも読みやすいよう配慮しました。

広報の成果：

その広報活動には、どのような成果が認められたか(定性・定量とも)

2010年度から発行部数を1500部増刷して4000部に。
当レポートを中心とした広報活動の展開により、溪仁会グループの社会的責任（CSR）経営が少しずつステークホルダーの皆さまに浸透しているという手応えを得ています。

グループの概要を知ってもらうパンフレットとしての機能も考慮して構成しており、今年度は特にリクルート活動にも積極的に活用しています。企業説明会などで200部以上を配布し、グループの未来を担う人材確保のためのエントランスの役割を果たしています。

2011年度版から「データで見る溪仁会グループ」のページを新設。職員数や施設のベッド数、財務関連のデータなど基本的な情報から、新人研修医の1日の歩数、ドクターヘリの平均速度などちょっとマニアックなトリビア情報まで一目でわかるようにまとめ、「わかりやすい」「意外な数字もあって面白い」と好評をいただいています。